

第9 大館市食育推進計画（平成22年度～26年度）の評価

※基本方針ごとの「推進の指標」について、平成21年度の数値を基準とし設定した目標と、平成26年度実施した食に関するアンケート調査結果、または直近の数値を比較しました。

1. 各基本方針の評価・現状と課題

基本方針1. 食の楽しさを広げます

(1) 指標の評価 ○：目標達成 △：改善がみられるも目標未達成 ×：改善みられず目標未達成

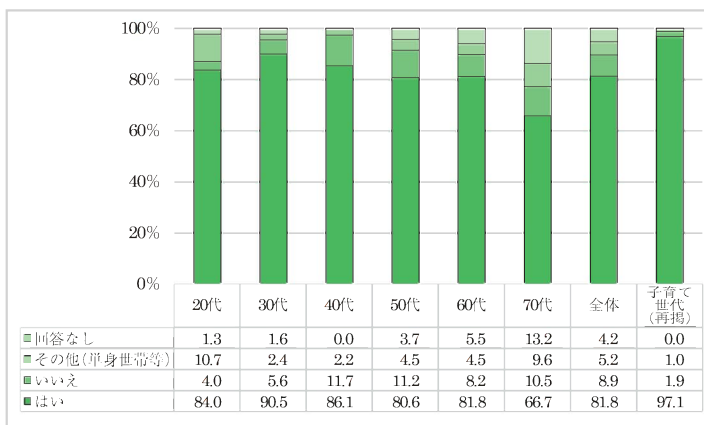
	項目	単位	H21年度	H26年度	目標	評価
1	1日1回は、家族や仲間と食事をとる人の割合 〔対象：子育て世代（幼児健診受診児保護者）〕 ※第2期秋田県食育推進計画 指標	%	78.2 (※参考県)	97.1	88	○
2	郷土料理、伝統料理を食事に取り入れている人の割合 ※健康課（食に関するアンケート）	%	9.3	12.4	30	△
3	市民菜園の利用者数 ※農林課	人	105	121	維持	○
4	栽培、収穫体験を実施している小学校の割合 ※学校教育課	%	100	100	維持	○

(2) 現状と課題

- ・本市の子育て世代（幼児健診受診児保護者）は他の年代と比較して、「1日1回は、家族や仲間と食事をとる人の割合」が多かった。家庭は子どもの食育の場であることから、今後も、家族と共に食事をする機会を増やしていくことが望まれる。
- ・「郷土料理、伝統料理を食事に取り入れている人の割合」は、微増しているものの目標には達しなかった。核家族化や食事の変化が影響していることが考えられる。今後は、さらに世代間交流や地域交流、農業団体等による食農教育を通して郷土料理や伝統料理の良さを見直し、次世代に継承していくことが必要とされる。

(3) 参考資料

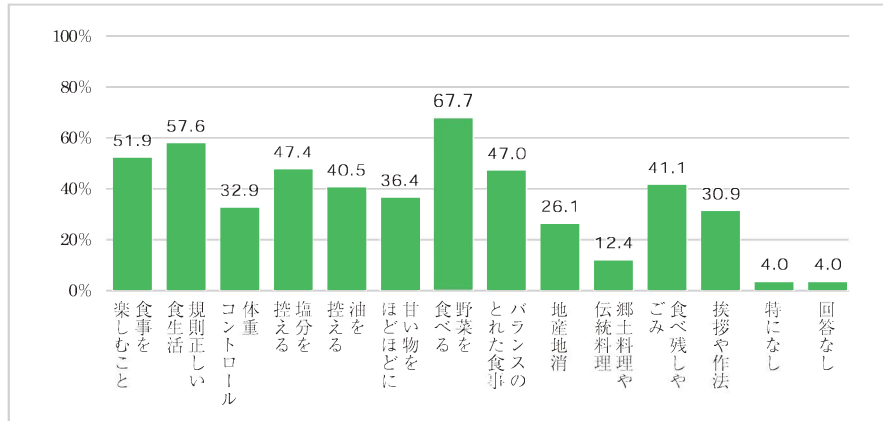
◆家族と食事を1日1回以上とる人の割合



平成26年度食に関するアンケート調査

◆「食」に関することで心がけていること

【全体】



平成26年度食に関するアンケート調査

基本方針2. 心とからだの健康づくりを広げます

(1) 指標による評価 ○：目標達成 △：改善がみられるも目標未達成 ×：改善みられず目標未達成

項目	単位	H21年度	H26年度	目標	評価
1 毎日、朝食を食べる人の割合〔対象：20歳代〕 ※健康課（食に関するアンケート）	%	59.5	66.7	70	△
2 食塩の摂取量〔対象：20～60歳代〕 ※健康課（尿中ナトリウム量測定による推定食塩摂取量）	g	11.5※ ₁ (H17～19実施)	11.4 (H24)	10未満	×
3 朝食に毎日野菜を食べる人の割合〔対象：30歳代〕 ※健康課（食に関するアンケート）	%	27.4	22.2	35	×
4 食事バランスガイドを知っている人の割合〔対象：30歳代〕 ※健康課（食に関するアンケート）	%	16.8	29.4	30	△

※1 平成17年～19年度尿中塩分調査実施者の平均値

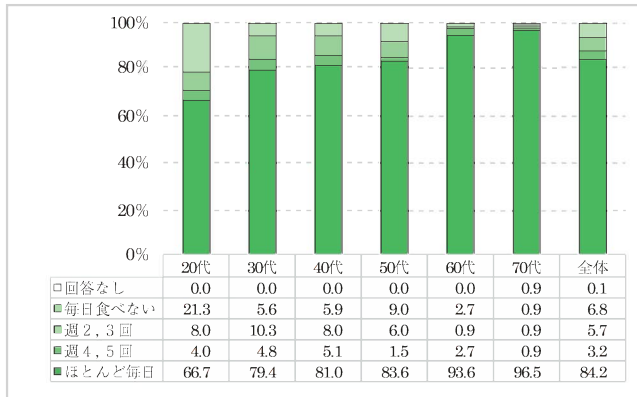
(2) 現状と課題

- ・「20歳代で毎日、朝食を食べる人の割合」は、平成21年度と比較すると増加したが、目標に達しなかった。欠食の習慣化は、栄養問題だけでなく生活習慣の乱れを生み出し、生活習慣病発症につながることを考えられるため、健全な食習慣の実践に向けた支援が必要と思われる。
- ・本市の小学生と中学生を比べると、毎日、朝食を食べる人の割合は中学生が低く、その理由は「食欲がない」が多い。
- ・減塩については、これまでも様々な機会に情報提供等を行っているものの、食塩摂取量にはほとんど変化が見られない。外食や加工食品などを食べる機会が増えていること、減塩に対する意識や減塩の実践には個人差が大きいことなどが、目標の10g未満に達しない要因と考えられる。
- ・「食事バランスガイドを知っている人の割合」は、平成21年度に比べると増加しているものの、年代で差がある。今後は、さらにバランスガイドの活用を促進し、食事のバランスを意識して食べる人を増やす必要がある。

(3) 参考資料

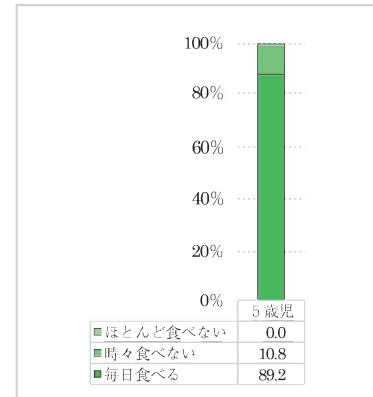
◆朝食の摂取状況

【20歳代～70歳代】



平成26年度食に関するアンケート調査

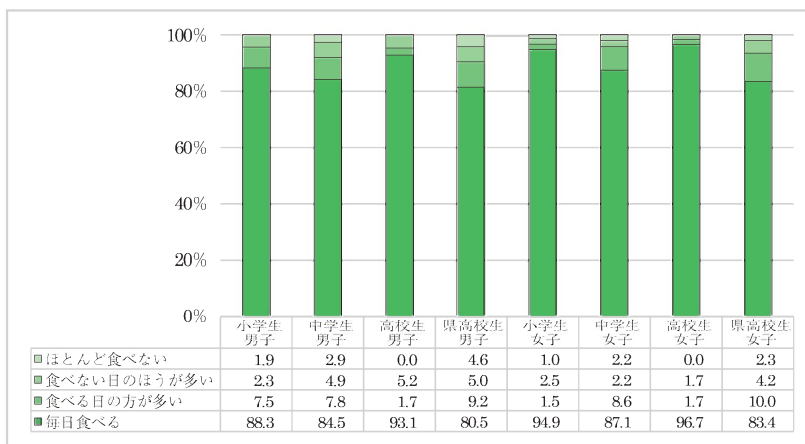
【5歳児】



平成25年度満5歳児

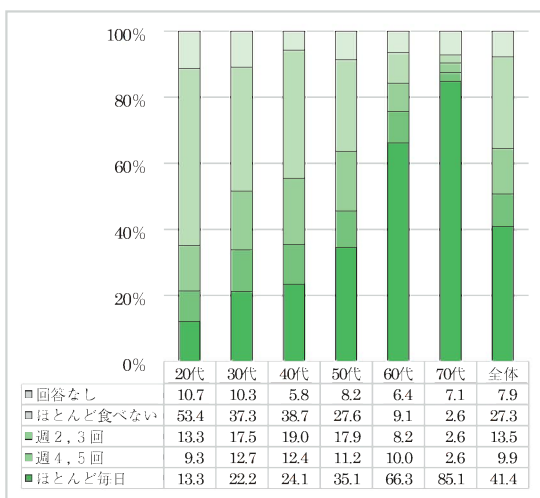
すてっぷ相談生活習慣アンケート

【小学生・中学生・高校生】



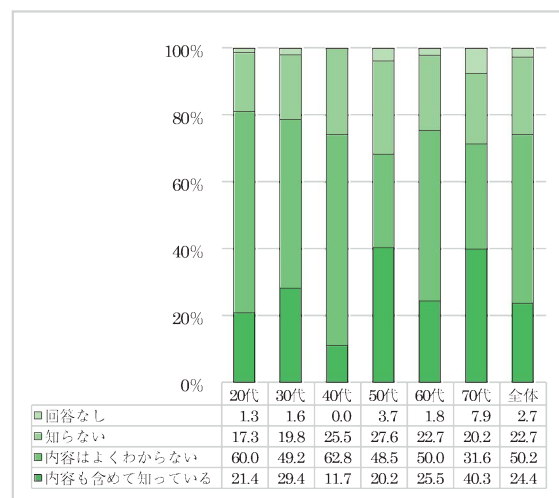
平成25年度児童生徒のライフスタイル調査

◆朝食の野菜摂取状況



平成26年度食に関するアンケート調査

◆「食事バランスガイド」を知っている人の割合



平成26年度食に関するアンケート調査

基本方針 3. 安全安心な食を広げます

(1) 指標による評価 ○：目標達成 △：改善がみられるも目標未達成 ×：改善みられず目標未達成

	項目	単位	H21年度	H26年度	目標	評価
1	学校給食における地場農産物（市内産、県内産）活用状況 ※学校教育課	%	37.3 〈野菜20品目〉	32.1 〈野菜21品目〉 (H25)	維持	－
2	地元（県内、市内）の食品を意識的に購入する人の割合 ※健康課（食に関するアンケート）	%	21.1	26.1	40	△
3	食の安全確保に関心がある人の割合 ※健康課（食に関するアンケート）	人	12.5	59.5	50	○

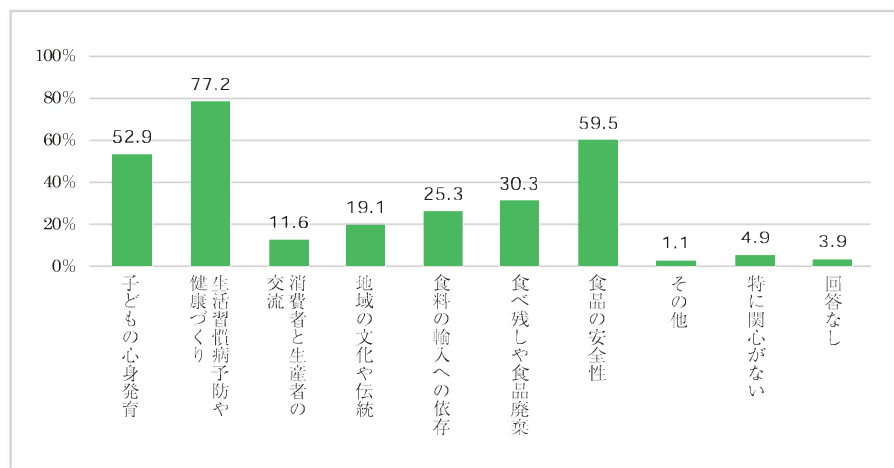
(2) 現状と課題

- ・就学前施設や学校の給食では、地場農産物の活用が積極的に進められている。その反面、地産地消を心がける人の割合は年代によって差があり、平成21年度と比較すると微増にとどまった。このことから、安全安心で、環境に優しい食材である地場産物の活用を市民に広めていく必要がある。
- ・放射性物質による汚染の問題、輸入食品の安全性や食品の産地偽造問題などの発生により、食の安全確保に関心がある人の割合が増加したと考えられる。今後も市民が食の安全、安心を意識して行動できるように適切な情報提供が望まれる。

(3) 参考資料

◆「食育」について関心がある内容

【全体】



平成26年度食に関するアンケート調査

基本方針4. 食育の輪を広げます

(1) 現状と課題

- ・食育推進委員会、食育推進検討会により、庁内の関係課間で情報共有や連携が図られるようになった。
- ・大館市の食育をすすめる連絡会議を開催し、関連機関や地域の食育に関わる団体等との情報共有を図るとともに、連携に努めた。
- ・「生涯にわたるライフステージに応じた中断のない食育の推進」のためには、家庭、未就学児施設、学校、地域などにおいて総合的に食育を推進する必要がある、今後もさらに、関係機関、関係団体等との情報共有と連携が必要である。

【指標に用いた数値】

- ・「食に関するアンケート調査」(平成21年度、平成26年度)〔健康課〕
- ・3歳児の保護者へのアンケート調査(平成21年度)〔秋田県農林水産部流通販売課〕
- ・学校給食物資使用調査(平成25年度)〔学校教育課〕
- ・「尿中ナトリウム量測定による推定食塩摂取量調査」(平成17～19年度、平成24年度)〔健康課〕
- ・「満5歳児すてっぷ相談生活習慣アンケート」(平成25年度)〔子ども課〕
- ・「児童生徒のライフスタイル調査」(平成25年度)〔秋田県教育庁保健体育課〕
- ・各課実績集計(平成21年度、平成26年度)〔農林課、学校教育課〕

